

他者による自己評価意識尺度作成の試み

－ 対人欲求・対人ストレスとの関係 －

An attempt to construct scales of self-consciousness of evaluation by others:
the relations to interpersonal motivations and interpersonal stress

上山 喜寛

UEYAMA Yoshihiro
(和歌山大学大学院教育学研究科)

米澤 好史

YONEZAWA Yoshifumi
(和歌山大学教育学部)

本研究の目的は、他者による自己評価意識尺度を作成し、気持ちと行動の関係、対人欲求や対人ストレスとの関係について検討することである。行動では気配り、消極的、迎合努力、抑制の4因子、気持ちでは評価不安、好印象希求、気疲れ、気遣いの4因子が得られた。対人欲求3因子すべてと有意な相関が見られたのは、男では好印象希求と気配りで、女では評価不安、好印象希求、迎合努力であり、女のほうが他者評価に依存的であった。ストレス頻度、インパクトすべてと有意な相関が見られたのは、男女ともに評価不安のみであった。評価不安は行動4因子とも相互に影響し合っていた。気疲れは気配り行動の結果、起こると言える。また、賞賛欲求、非拒否欲求には積極的行動をとる場合と消極的態度をとる場合があった。対人磨耗によるストレスインパクトが気疲れに、ストレス頻度が評価不安に関係していた。このように他者による自己評価意識が対人態度や人間関係に強く影響していることを明らかにした。

キーワード：自己意識・自己評価・他者意識・対人態度・人間関係

1. はじめに

私たちは対人関係を円滑に進めていくために、他者を気遣ったり、合わせたりなどの気持ちや行動をとることがある。このような気持ちや行動の背景には何があるのだろうか。純粹に他者を思いやる気持ちからの行動であるとも考えられるが、どう思われているか気になったり、良く思われたい、悪く思われたくないという欲求からの行動とも考えられる。では、他者にどう思われているか気になるという気持ちが強い人にとって、対人関係はどのような意味を持つのだろうか。

岡田（1993）は、現代青年の特質として「ふれあい恐怖的心性」という、対人関係が深まるような場面を回避する傾向があるとともに、身近な集団に受容されることに強迫的な努力と気遣いを行う面があることや、他者から暗いとか面白くない人間だと評価され仲間はずれにされることを極度に恐れるため、実際以上に明るく振舞い、深刻な話題を避けるといった傾向があるとしている。このことから、他者にどう思われているか気になる気持ちが強い人は対人関係の中で、

周りを気遣ったり、自分を抑えて無理に合わせたり、他者の反応に対して不安になって、本来の自分とは違う行動をしたり、他者の知らないところで気疲れしていたりする傾向があるのではないだろうか。

渡部（1999）は対人態度の背後には、“他者から賞賛されたい欲求”、“他者から拒否されたくない欲求”、“他者との関係を回避したい欲求”という三つの独立した欲求が存在するとしている。賞賛されたい欲求の強い者は積極的に行動し他者の注目を集めることによって、拒否されたくない欲求の強い者は個性を殺し周囲との軋轢を最小限にすることによって、集団の中に自分の居場所や役割を確保しようとする。回避したい欲求の強い者は他者からの直接的な拒絶や批判を回避し自己を防衛している。他者にどう思われるか気にしている人は、ある面では良く思われたいから、賞賛されたい欲求を強く持つのではないだろうか。またある面では、悪く思われたくないから、他者から拒否されたくない欲求を強く持つのではないだろうか。一方、他者に悪く思われたくないから、相手に合わせたり、気遣ったりしているうちに気疲れしてし

まい、他者との関係を回避したい欲求が高まっているという一面も持っているのではないだろうか。

また、現代青年にとって、対人関係の否定的側面がストレスサーとなりうることは数多く指摘されている。

橋本（1997）は対人関係におけるストレスイベントを、対人葛藤、対人劣等、対人磨耗の三つに分類している。対人葛藤は、日常生活で時々起こる、社会の規範からは望ましくない顕在的な対人葛藤に関するものである。対人劣等は対人関係において劣等感を触発する事態やスキルの欠如などに関するものである。対人磨耗は日常のコミュニケーションにおいて頻繁に起こる、社会規範からさほど逸脱したものでない配慮や気疲れを伴う対人関係がストレスをかけている事態に関するものである。他者にどう思われているか気にしている人は、ある面では気遣いや気配りをするから、対人磨耗によるストレスをより多く感じているのではないだろうか。またある面では、自分を抑えて相手に合わせたり、良く思われたいと感じたりするなど、自分に自信がなく、対人劣等によるストレスを多く感じているのではないだろうか。

対人関係で負担を感じていても、本人の許容範囲であったり、何らかの発散方法で対処できていたりするうちは大丈夫であろう。しかし、負担の限度を超えてしまうと、本人にとって良くないのはもちろん、身近にいる人たちにとってもどう対処していいのかわからずに戸惑うことになるだろう。他者にどう思われているか気にしている人の気持ちと行動傾向、特性を知ることが、他者にどう思われているか気にしている人を理解するために役立つと考えられる。

菅原（1984）は自分自身にどの程度注意を向けやすいかの個人差を測定するものとして自意識尺度を作成した。辻（1993）は他者への注意の向けやすさや注意を向ける方向を測定するものとして他者意識尺度を作成した。どちらも“自分”が“自分”あるいは“他者”にどの程度注意を向けるかを測定するものであり、その主体は“自分”である。しかし、「自分が他者にどう思われているか気にする人」は気にするのは“自分”でありながら“自分”に注意を向けているのは“他者”である。自意識尺度、他者意識尺度と異なり、主体の位置が“自分”にも“他者”にもあり、これまでにない尺度である。

こうした考えに立ち、本研究では（a）自分が他者にどう思われているか気にしている人の気持ちと行動の傾向を確認するための尺度を作成し、（b）気持ちと行動の関係について、（c）自分が他者にどう思われているか気にしている人の気持ちと対人欲求の関係について、（d）自分が他者にどう思われているか気にしている人の気持ちと対人ストレスイベント尺度との関連について研究することを目的とする。

2. 方法

2.1. 質問紙

①他者による自己評価意識尺度（気持ち）：他者にどう思われているか気にしている人にインタビューを行い、具体的にどのように気にしているかを質問した。その中から回答数の多かったものを参考にして作成した28項目に、平石（1990）の「自己肯定意識尺度」、植田・吉森（1990）の「日本版MLAM承認欲求尺度」、木内（1995）の「相互独立・相互協調的自己観尺度」、菊池（1988）の「KISS-18」を参考にした8項目を加えた36項目を作成した。

②他者による自己評価意識尺度（行動）：他者にどう思われているか気にしている人にインタビューを行い、気にしているときに具体的にどのような行動をとるか質問した。その中から回答数の多かったものを参考にして作成した27項目に、平石（1990）の「自己肯定意識尺度」、植田・吉森（1990）の「日本版MLAM承認欲求尺度」、木内（1995）の「相互独立・相互協調的自己観尺度」、菊池（1988）の「KISS-18」、「向社会的行動尺度（大学生版）」を参考にした9項目を加えた36項目を作成した。また、他者による自己への評価意識尺度は気持ちの項目と行動の項目を対応させて作成した。

③対人欲求尺度：渡部（1999）が作成したものを用いた。“他者から賞賛されたい欲求”、“他者から拒否されたくない欲求”、“他者との関係を回避したい欲求”に関する項目である。

④対人ストレスイベント尺度（ストレス度）：橋本（1997）の作成した対人ストレスイベント尺度を用いた。“対人葛藤”、“対人劣等”、“対人磨耗”に関する項目である。

⑤対人ストレスイベント尺度（頻度）：同上の尺度の各項目について、どの程度の頻度で起こったかの評定を求めた。

⑥対人関係において気にする場面と気にする行動の二つの質問について自由記述を求めた。

2.2. 被調査者と調査実施日

和歌山大学学生190名（男85名、女105名）に対して、2005年12月中旬に実施した。

2.3. 手続き

講義の時間に集団式で質問紙を配布し回答を求めた。

3. 結果

3.1. 因子分析

各尺度について主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った。

固有値の変動および解釈可能性から、他者による自己評価意識尺度（行動）では、4 因子が抽出された (Table 1)。

因子1は「自分といるときに居心地がいいと思われたいので友だちに気を遣わせないようにする」、「友だちから頼りにされると嬉しいので、友だちが落ち込んでいたらメールや電話をして励ます」など、相手に気を配る行動が負荷しており、「気配り因子」と名付けた。

因子2は「話し合いなどでは他の人の反応が気になるので、自分の意見を言うのは控える」、「偉そうな人だと思われたくないの、友だちの反対を受けると自分の考えを変えてしまう」など、相手に対して消極的で悪く思われたくないから自分を引こうとする控えめな態度が負荷しており、「消極的因子」と名付けた。

因子3は「気が合わないと思われたくないの、気の合わない人でも無理してつきあう」、「遊びに誘われたら、つきあいが悪い人だと思われたくないの、乗り気じゃなくても無理して参加する」など、悪く思われたくないから我慢して合わせようとする行動が負荷しており、「迎合努力因子」と名付けた。

因子4は「友だちの負担を考えてしまう、自分から相談するのをためらう」、「友だちの負担を考えてしまうと頼みごとができない」など、自分の気持ちを抑える行動が負荷しており、「抑制因子」と名付けた。 α 係数はそれぞれ .82、.75、.78、.71 であった（以下、 α 係数は小数点第3位で四捨五入）。

Table1
他者による自己への評価意識尺度（行動）の因子分析結果

項目内容	因子1	因子2	因子3	因子4	共通性
自分といるときに居心地がいいと思われたいので、友だちに気を遣わせないようにする	.638	-.002	-.226	.023	.315
友だちから頼りにされると嬉しいので、友だちが落ち込んでいたらメールや電話をして励ます	.637	-.236	.054	-.078	.334
友だちと話しているときに沈黙してしまうと、自分から何か話さないとなってしまう	.611	-.008	-.018	-.115	.300
友だちから家に思われていないか気になるので、友だちの表情の変化できるだけ読み取るようにする	.564	.078	-.063	-.018	.313
手間のかかる人だと思われたくないの、自分の負担になってもいいから友だちのために頑張らうとする	.487	-.114	.183	.166	.441
友だちと話すときは「これを言ったら相手は嫌われないかな?」を気にかけて話している	.471	.232	-.085	.020	.330
自分から悪く思われていないかもしれないと感じたら、印象を良くしようと努力する	.460	-.098	.182	.010	.300
リーダーになったら、何かを決めるときに不公平だと思われたくないの、みんなの意見をよく聞くようにする	.429	.090	.052	-.036	.235
友だちと共通の話題を持つために雑誌やテレビをチェックする	.426	.091	-.001	-.127	.170
友だち思っている人だと思われたいので、授業で休んでいた友だちの分のプリントなどを取って来てあげる	.389	.006	.131	-.059	.198
ひとことしたら見られてるかもしれないと思って、周りをきょきょ見してしまう	.342	-.113	.123	.241	.295
友だちが悪い人だと思われたくないの、友だちから頼まれると断ることができない	.340	.130	.214	-.021	.299
怒っていると思われたくないの、話すときはできるだけ柔らかない雰囲気でするようになっている	.307	-.173	.283	.208	.348
話し合いなどでは他の人の反応が気になるので、自分の意見を言うのは控える	-.121	.633	.057	.220	.529
偉そうな人だと思われたくないの、友だちの反対を受けると自分の考えを変えてしまう	-.176	.606	.091	-.016	.538
負けず嫌いだと思われたくないの、勝ち負けにこだわらないようにする	-.208	.583	.099	.066	.341
友だちを傷つけるのが嫌なので、言い争いになると自分から引いてしまう	-.164	.402	.054	-.026	.257
張り切っている人だと思われたくないの、代表になるなどの目立つことは避ける	-.057	.390	.151	.142	.272
出しはらないように、話し合いでは自分が率先して話すよりも、他の人の話をよく聞く	.290	.384	-.247	.229	.392
気が合わないと思われたくないの、気の合わない人でも無理してつきあう	-.019	-.092	.713	.062	.493
遊びに誘われたら、つきあいが悪い人だと思われたくないの、乗り気じゃなくても無理して参加する	.028	.245	.620	-.183	.467
遊んでいるメンバーの中に自分と気が合わない人がいても、他の友だちに気づかれたくないので我慢して遊ぶ	-.049	.101	.596	.002	.375
ノリが悪い人だと思われたくないの、遊ぶときは気が乗らなくても周りのノリに合わせておく	.054	.282	.568	-.159	.462
感じが悪い人だと思われたくないの、気が合わない友だちといともども変態よく振舞って気づかれないようにする	.283	-.045	.387	.129	.420
友だちの負担を考えてしまうと、自分から相談するのをためらう	-.157	.155	-.079	.845	.672
友だちの負担を考えてしまうと頼みごとができない	-.054	.014	-.054	.781	.546
本音の自分は、みんなは受け入れてもらえないと思うので、自分を出すのを控える	-.020	.182	-.024	.405	.241
悩んでいる友だちが「私は深入りしてほしくない」と思っているかもしれないので、相談されるまで待つ	.003	.090	.027	.358	.177
自分から悪く思われたくないの、気を遣わなくていいくらい仲の良い友だちでも気を遣う	.180	-.069	.261	.313	.341
友だちとの関係を悪くしたくないので、自分からめんどくさくすることを避ける	.468	.464	-.191	.036	.519
素っ気ない人だと思われたくないの、メールでは無理に絵文字や顔文字を使って文章を明るく見せる	.283	.116	.103	.014	.178
気のきく人だと思われたいので、待ち合わせの場所や時間は先に友だちに希望を聞く	.280	.015	.273	.124	.325
怒らせるようなことを送ったかもしれない友だちに思われたくないの、メールの返信はできるだけ早く返す	.264	.094	.064	-.086	.098
良いイメージを持たれたいので、友だちの期待通りの受け答えをしようとする	-.068	.452	.388	-.064	.391
成績が良いと、人からねたまれるかもしれないので、成績が良くないふりをする	-.167	.207	.298	.273	.269
心を配らなくてはならないので、友だちに気を遣って疲れていても、疲れている素振りを見せない	.037	.043	.176	.244	.163
固有値	6.475	4.851	5.326	5.042	
寄与率 (%)	23.000	4.870	3.547	2.873	34.290

他者による自己への評価意識尺度（気持ち）では4 因子が抽出された (Table 2)。

因子1は「先頭に立ってグループを引っ張るのは、張り切っている人だと思われそうなので自信を持って行動すると、偉そうな人だと思われそうなので気にする」、「自分に自信を持って行動すると、偉そうな人だと思われそうなので気にする」など自分の評価に敏感で不安に思う気持ちが負荷しており、「評価不安因子」と名付けた。

因子2は「自分と一緒にいるときに、居心地がいいと思われたい」、「自分に対してできるだけ良いイメージを持ってもらいたい」など、良い印象を持ってもらいたい気持ちが負荷しており、「好印象希求因子」と名付けた。

因子3は「本当は気の合う人とだけつきあいたい」、「遊ぶメンバーの中に気の合わない人がいると、その人に合わせるのは疲れる」など、人に合わせることや気を遣うことに疲れている気持ちが負荷しており「気疲れ因子」と名付けた。

因子4は「友だちと話すときは、知らない間に友だちを傷つけてしまわないか気をつけて話したい」、「言い争いになって自分が傷つくよりも友だちが傷つくほうが嫌だ」など、相手のことを気遣う気持ちが負荷しており、「気遣い因子」と名付けた。 α 係数はそれぞれ .90、.70、.60、.45 であった。

対人欲求尺度では、渡部（1999）同様、3 因子を抽出した。

因子1には「みんなから尊敬される人になりたい」、

Table2
他者による自己への評価意識尺度（気持ち）の因子分析結果

項目内容	因子1	因子2	因子3	因子4	共通性
先頭に立ってグループを引っ張るのは、張り切っている人だと思われそうなので気にする	.760	-.058	-.056	-.165	.434
自分に自信を持って行動すると、偉そうな人だと思われそうなので心に配る	.740	-.084	.021	-.053	.484
自分を出しすぎると、自己主張が強い人だと思われそうなので気な	.722	-.042	.006	-.006	.495
成績が良いと、人からねたまれるのではないかと心配になる	.689	-.150	-.245	-.012	.308
勝負ごとに必要になっていると、負けず嫌いな人だと思われそう	.676	-.068	-.029	-.042	.380
遊びに誘われたときに参加しないと、つきあいが悪い人だと思われそう	.595	.211	.057	-.208	.469
友だちからの頼みを断ると、友だち思っていない人だと思われそう	.590	.096	-.136	.118	.405
友だちと話しているときに、友だちから家に思われていないか気に	.553	.049	.135	.122	.521
友だちの相談のりたいたいと思うが、友だちは「深入りしてほしくない」と思っているのではと考えると	.552	-.090	.034	.104	.338
何かを決めるときは相手を優先することで、気のきく人だと思われ	.542	.091	.071	-.066	.368
遊ぶときは周りに合わせておかないと、ノリが悪い人だと思われそう	.516	.204	.113	-.174	.420
気を遣わなくていいくらい仲の良い友だちでも、自分から悪く思われ	.474	-.028	.025	.142	.301
友だちのために何かしないと、友だちが自分からはなれていってし	.463	.026	.149	.132	.407
友だちに頼ってばかりいると、手間がかかる人だと思われそうに	.451	.042	-.078	.114	.244
友だちと共通の話題がないと、話が合わない人だと思われそう	.423	.236	.185	-.181	.402
変態よく振舞わないと、感じが悪い人だと思われそうになる	.343	.274	.046	.117	.384
自分と一緒にいるときに、居心地がいいと思われたい	-.162	.846	-.135	.101	.608
自分に対してできるだけ良いイメージを持ってもらいたい	-.075	.738	.019	-.079	.477
友だちから相談されると、自分を認めてくれてるようで嬉しい	-.269	.703	.036	.200	.499
リーダーになったら、何かを決める時に周リから不公平だと思わ	.245	.365	-.061	-.099	.214
友だちとの関係を悪くしたくないので、できるだけ友だちと対立する	.212	.307	.071	.217	.296
本当は気の合う人とだけつきあいたい	-.108	-.164	.626	-.010	.287
遊ぶメンバーの中に気の合わない人がいると、その人に合わせる	-.130	.059	.587	-.240	.302
友だちが大勢集まる場では、それだけ気を遣うことが多くなるので	.073	-.102	.533	.113	.333
速くで笑われたら、自分のことかもしれないと思ってしまう	.248	.030	.364	-.003	.306
話し合いをするときは、他の人が自分の考えにどう反応するかに	-.120	.272	.323	.234	.314
友だちと話すときは、知らない間に友達を傷つけてしまわないか	.037	.099	.056	.541	.389
言い争いになって自分が傷つくよりも友達が傷つく方が嫌だ	-.185	.127	-.167	.337	.275
友だちが頼みごとをしようと思っても、友だちに負担をかけたくな	.185	-.022	.067	.332	.216
自分から相談するのは、友だちに負担をかけるかもと考えてしま	.519	-.295	-.024	.356	.407
素っ気ない人だと思われたいので、メールでは無理に絵文字や	.370	.079	-.057	.315	.352
自分に対して悪いイメージを持たれていたら、それ以上悪く思わ	.327	.510	-.289	.033	.401
メールで絵文字などを使わないと、素っ気ない人だと思われそう	.276	.299	-.005	.057	.269
メールが返ってこないと、怒らせるようなことを送ったかもしれない	.095	.241	.152	.217	.278
友だちと話しているときに沈黙してしまうと、自分から話さない	.157	.238	.153	-.014	.191
知らない人だと思われたいので、自分から話していいか悪い	.178	-.057	.295	.115	.199
固有値	8.167	5.186	4.237	3.454	
寄与率 (%)	24.531	5.621	3.250	2.624	36.026

など、“他者から賞賛されたい欲求”に関する項目、因子2には「自分がしたいように行動するよりも、周囲の人から好まれるように行動したい」など、“他者から拒否されたくない欲求”に関する項目、因子3には「人と深く関わるほど自分の嫌な部分を相手に知られそうで、積極的に人と深く関わりたいと思わない」など、“他者との関係を回避したい欲求”に関する項目が負荷した。また、因子間での項目の異動は見られなかった。 α 係数は順に.92、.84、.73であった。

対人ストレスイベント尺度では、橋本（1997）と同様にストレス度、頻度、そしてインパクトとして項目ごとにストレス度と頻度を掛け合わせたもの（以下インパクト）にそれぞれ因子分析を行った。

ストレス度では橋本（1997）と同様、2因子を抽出した。

因子1には「知人に嫌な顔をされた」など、対人葛藤と対人劣等に該当する項目が高く負荷し、“顕在的対人ストレス因子”、因子2には「あまり親しくない人と会話した」など、対人磨耗に該当する項目が負荷し、“潜在的対人ストレス因子”とした。因子間での項目の異動は、橋本（1997）では、因子2であった「上下関係に気を遣った」がどの因子にも属さなかった。また、橋本（1997）ではどの因子にも属さなかった「会話中に気まずい沈黙があった」、「親しくなりたい相手となかなか親しくなれなかった」、「知人に対して劣等感を抱いた」、「知人が無責任な行動をした」の5項目が顕在的対人ストレス因子に、「同じことを何度も言われた」、「誰が悪いというわけでもないとき、自分から謝った」の2項目が潜在的対人ストレス因子に含まれた。 α 係数は順に.92、.72であった。

頻度でも橋本（1997）同様、3因子を抽出した。

因子1には「知人から責められた」などの項目が負荷したので、“対人葛藤頻度因子”、因子2には「相手が嫌な思いをしていないか気になった」などの項目が負荷したので、“対人劣等頻度因子”、因子3には「テンポの合わない人と会話した」などの項目が負荷したので、“対人磨耗頻度因子”とした。また、因子間での項目の異動は、橋本（1997）では対人葛藤頻度因子であった「同じことを何度も言われた」がどの因子にも含まれなかった。そして、どの因子にも属さなかった「知人のストレス発散につきあわれた」、「約束を破られた」の2項目が対人葛藤頻度因子に、「上下関係に気を遣った」、「知人に深入りされないように気を遣った」の2項目が対人磨耗頻度因子に含まれた。 α

係数は順に.85、.86、.81であった。

インパクトについても、橋本（1997）同様、3因子を抽出した。

因子1が「知人が自分のことをどう思っているのか気になった」などの項目が負荷したので、対人劣等因子、因子2が「知人とけんかした」などの項目が負荷したので、対人葛藤因子、因子3が「あまり親しくない人と会話した」などの項目が負荷したので、対人磨耗因子とした。因子間での項目の異動は、橋本（1997）では対人葛藤因子の「知人と意見が食い違った」、「知人が無責任な行動をした」がどの因子にも属さず、どの因子にも属さなかった「上下関係に気を遣った」、「知人に深入りされないように気を遣った」、「好意的な人の誘いを断った」、「同じことを何度も言われた」の4項目が対人磨耗因子に含まれた。 α 係数は順に.89、.84、.81であった。

3.2. 各尺度の相関

各尺度の相関をTable 3、Table 4、Table 5に示した。なお、相関表の**は、相関係数は1%水準で有意（両側）、*は、相関係数は5%水準で有意（両側）を表している。

気持ち4因子と行動4因子の相関は、全体では気持ち4因子と行動4因子の間には有意な正の相関があったが、男女ともに「気遣い・気疲れ」、「迎合努力・気疲れ」には有意な相関はなかった。また、女では「迎合努力・気遣い」、「抑制・気疲れ」、「抑制・気遣い」にも有意な相関は見られなかった。全体と女で一番相関が高かったのは「気配り・好印象希求」であるのに対し、男は「消極的・評価不安」であった。

次に、気持ち、行動と対人欲求の相関は、全体、男女ともに、拒否されたくない欲求との間に、すべて有意な正の相関があった。全体と男では、関係を回避したい欲求との間にすべて有意な正の相関があるのに対し、女では「気遣い」、「気配り」において有意な相関が得られなかった。全体では、賞賛されたい欲求と「好印象希求」、「気配り」、「迎合努力」との間に有意な正の相関が見られたのに対し、男では「好印象希求」、「気配り」に、女では「評価不安」、「好印象希求」、「気配り」、「迎合努力」に有意な正の相関が見られた。対人欲求3因子すべてにおいて有意な正の相関が見られたのは、全体では「好印象希求」、「気配り」、「迎合努力」であり、男では「好印象希求」、「気配り」であ

Table 3
各尺度の相関（全体）

	評価不安	好印象	気疲れ	気遣い	気配り	消極的	迎合努力	抑制	賞賛	非拒否	回避	顕在的	潜在的	葛藤頻度	劣等頻度	磨耗頻度	対人劣等	対人葛藤	対人磨耗
評価不安	1	.410(**)	.414(**)	.439(**)	.624(**)	.669(**)	.620(**)	.676(**)	.015	.452(**)	.367(**)	.440(**)	.143	.259(*)	.549(**)	.390(**)	.613(**)	.365(**)	.415(**)
好印象		1	.325(**)	.303(**)	.544(**)	.413(**)	.296(**)	.286(**)	.356(**)	.537(**)	.267(*)	.067	-.137	-.087	.105	.061	.098	.014	.017
気疲れ			1	.211	.344(**)	.361(**)	.175	.327(**)	-.041	.250(*)	.399(**)	.219(*)	.218(*)	.211	.312(**)	.199	.321(**)	.275(*)	.319(**)
気遣い				1	.451(**)	.479(**)	.253(*)	.598(**)	.044	.453(**)	.359(**)	.148	.000	.149	.431(**)	.254(*)	.374(**)	.164	.221(*)
気配り					1	.557(**)	.581(**)	.615(**)	.378(**)	.585(**)	.304(**)	.362(**)	.036	.119	.347(**)	.192	.432(**)	.283(**)	.229(*)
消極的						1	.574(**)	.621(**)	.022	.577(**)	.447(**)	.184	.017	.112	.369(**)	.110	.337(**)	.196	.131
迎合努力							1	.478(**)	.206	.415(**)	.212	.327(**)	.047	.171	.247(*)	.145	.364(**)	.339(**)	.183
抑制								1	.013	.423(**)	.490(**)	.289(**)	.156	.184	.425(**)	.202	.467(**)	.251(*)	.256(*)

Table 4
各尺度の相関 (男)

	評価不安	好印象	気疲れ	気遣い	気配り	消極的	迎合努力	抑制	賞賛	非拒否	回避	顕在的	潜在的	葛藤頻度	劣等頻度	摩擦頻度	対人劣等	対人葛藤	対人摩擦
評価不安	1	.410(**)	.414(**)	.439(**)	.624(**)	.669(**)	.620(**)	.676(**)	.015	.452(**)	.367(**)	.440(**)	.143	.259(*)	.548(**)	.390(**)	.613(**)	.365(**)	.415(**)
好印象		1	.325(**)	.303(**)	.544(**)	.413(**)	.296(**)	.286(**)	.356(**)	.537(**)	.267(*)	.067	-.137	-.087	.105	.061	.098	.014	.017
気疲れ			1	.211	.344(**)	.361(**)	.175	.327(**)	-.041	.250(*)	.399(**)	.219(*)	.218(*)	.211	.312(**)	.199	.321(**)	.275(*)	.319(**)
気遣い				1	.451(**)	.479(**)	.253(*)	.598(**)	.044	.453(**)	.359(**)	.148	.000	.149	.431(**)	.254(*)	.374(**)	.164	.221(*)
気配り					1	.557(**)	.581(**)	.615(**)	.378(**)	.585(**)	.304(**)	.362(**)	.036	.119	.347(**)	.192	.432(**)	.283(**)	.229(*)
消極的						1	.574(**)	.621(**)	.022	.577(**)	.447(**)	.184	.017	.112	.369(**)	.110	.337(**)	.196	.131
迎合努力							1	.478(**)	.206	.415(**)	.212	.327(**)	.047	.171	.247(*)	.145	.364(**)	.339(**)	.183
抑制								1	.013	.423(**)	.490(**)	.289(**)	.156	.184	.425(**)	.202	.467(**)	.251(*)	.256(*)

Table 5
各尺度の相関 (女)

	評価不安	好印象	気疲れ	気遣い	気配り	消極的	迎合努力	抑制	賞賛	非拒否	回避	顕在的	潜在的	葛藤頻度	劣等頻度	摩擦頻度	対人劣等	対人葛藤	対人摩擦
評価不安	1	.489(**)	.469(**)	.226(*)	.565(**)	.574(**)	.480(**)	.481(**)	.209(*)	.534(**)	.420(**)	.447(**)	.029	.239(*)	.481(**)	.258(**)	.546(**)	.359(**)	.200(*)
好印象		1	.277(**)	.401(**)	.726(**)	.229(*)	.419(**)	.214(**)	.557(**)	.561(**)	.249(*)	.513(**)	-.117	.066	.464(**)	.000	.533(**)	.290(**)	.027
気疲れ			1	.176	.259(**)	.203(*)	.164	.164	.149	.253(**)	.489(**)	.454(**)	.348(**)	.055	.436(**)	.393(**)	.523(**)	.229(*)	.497(**)
気遣い				1	.304(**)	.324(**)	.038	.172	.030	.364(**)	.123	.398(**)	-.024	-.102	.201(*)	-.028	.271(**)	.036	.013
気配り					1	.336(**)	.525(**)	.307(**)	.449(**)	.545(**)	.142	.427(**)	-.126	.121	.438(**)	.059	.482(**)	.249(*)	.032
消極的						1	.368(**)	.439(**)	-.063	.635(**)	.489(**)	.360(**)	.087	.077	.325(**)	.164	.378(**)	.228(*)	.148
迎合努力							1	.284(**)	.272(**)	.273(**)	.312(**)	-.035	.145	.313(**)	.050	.370(**)	.199(*)	.199(*)	.005
抑制								1	.070	.324(**)	.391(**)	.286(**)	.063	.095	.252(**)	.197(*)	.278(**)	.175	.174

り、女では「評価不安」、「好印象希求」、「迎合努力」であった。

気持ち、行動とストレス度の相関は、全体と女では、顕在的対人ストレスとの間にすべて有意な正の相関が見られたのに対し、男では「好印象希求」、「気遣い」、「消極的」との間に有意な相関が得られなかった。全体、男女ともに、潜在的対人ストレスとの間に「気疲れ」で有意な正の相関が得られ、それ以外では有意な正の相関が得られなかった。そして、全体、男女ともに、ストレス頻度3因子、インパクト3因子すべてと相関が見られたのは、「評価不安」のみであった。また、全体と女では、対人劣等頻度、対人劣等との間にすべて有意な正の相関が見られたのに対し、男では「好印象希求」で有意な相関が見られなかった。一方、全体と女では、対人摩擦頻度との間に「評価不安」、「気疲れ」、「抑制」で有意な正の相関が得られたのに対し、男では「評価不安」、「気遣い」に有意な正の相関が得られた。

3.3. 重回帰分析

他者による自己評価意識は、気持ちが行動を規定しているとも仮定できるが、行動が気持ちに影響している可能性も考えられるので、2通りの重回帰分析を行った。

まず、他者による自己評価意識尺度(行動)の4因子「気配り」、「消極的」、「迎合努力」、「抑制」をそれ

ぞれ目的変数とし、それ以外の15因子を説明変数として重回帰分析(ステップワイズ法)を行った。その結果をFigure 1、Figure 2、Figure 3に示した。

全体では、気配りは「好印象希求」、「賞賛欲求」、「非拒否欲求」、「評価不安」の影響を受けていた。男ではこのうち、「好印象希求」の影響がなかった。女では「賞賛欲求」の影響がなく、「回避欲求」の影響を受けていた。

全体では、消極的態度はすべての対人欲求と「評価不安」の影響を受けている。男ではこのうち、「賞賛欲求」、「回避欲求」の影響がなかった。女では「賞賛欲求」の影響がなく、「好印象希求」、「気遣い」、「気疲れ」の影響を受けていた。

全体と女では、迎合努力は「非拒否欲求」、「評価不安」、「気遣い」の影響を受けていた。男ではこのうち、「非拒否欲求」、「気遣い」の影響がなく、「賞賛欲求」の影響を受けていた。

全体と男では、抑制は「評価不安」、「回避欲求」、「気遣い」の影響を受けていた。女ではこのうち、「気遣い」の影響がなかった。

次に、他者による自己への評価意識尺度(気持ち)の4因子「評価不安」、「好印象希求」、「気疲れ」、「気遣い」をそれぞれ目的変数とし、それ以外の15因子を説明変数として重回帰分析(ステップワイズ法)を行った。その結果をFigure 4、Figure 5、Figure 6に示した。

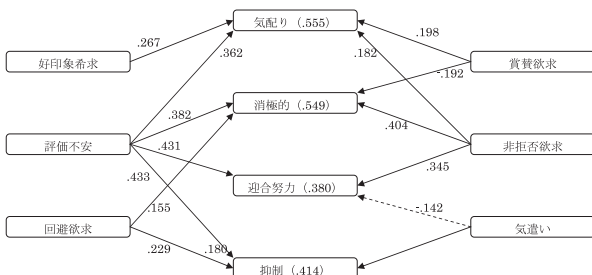


Figure 1
行動4因子の重回帰分析の結果 (全体)

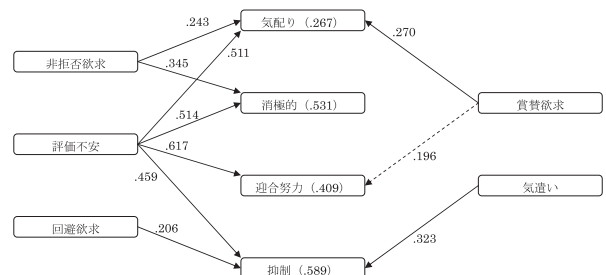
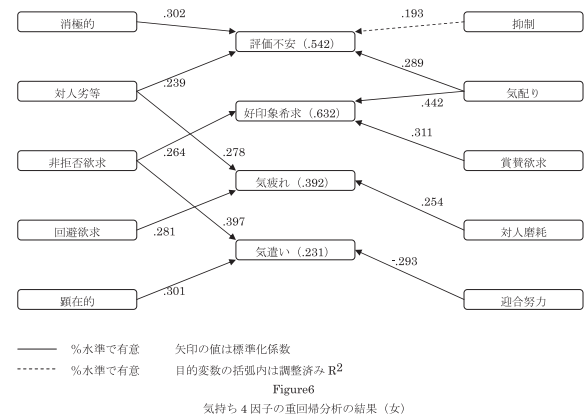
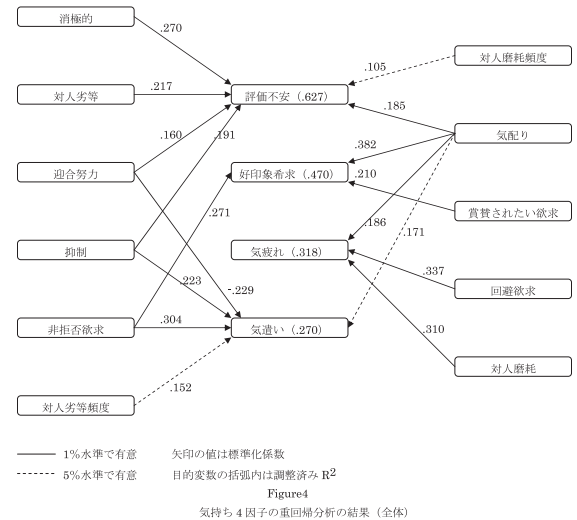
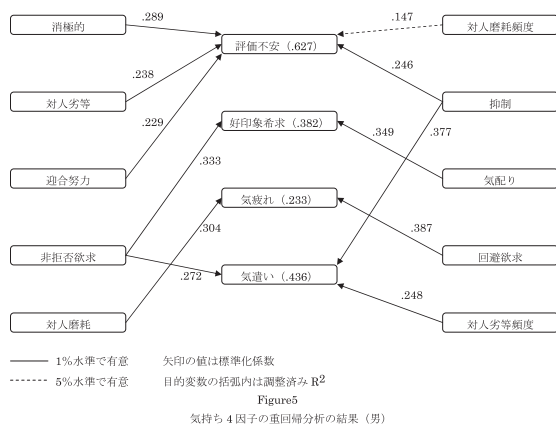
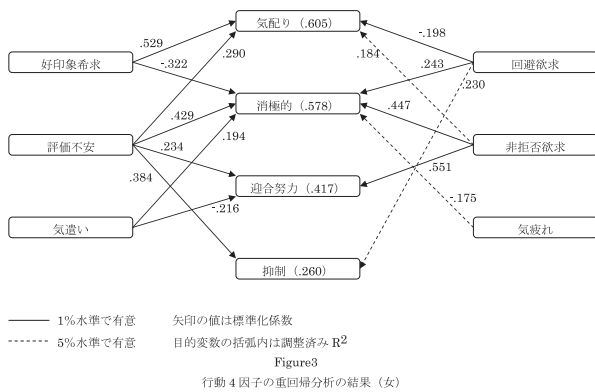


Figure 2
行動4因子の重回帰分析の結果 (男)



全体では、評価不安は「消極的」、「対人劣等」、「対人磨耗頻度」、「迎合努力」、「抑制」、「気配り」の影響を受けていた。男ではこのうち、「気配り」の影響がなかった。女では「迎合努力」、「対人磨耗頻度」の影響がなかった。

全体と女では、好印象希求は「気配り」、「賞賛欲求」、「非拒否欲求」の影響を受けていた。男ではこのうち、「賞賛欲求」の影響がなかった。

全体では、気疲れは「気配り」、「対人磨耗」、「回避欲求」の影響を受けていた。男ではこのうち、「気配り」の影響がなかった。女でも「気配り」の影響はなく、「対人劣等」の影響を受けていた。

全体では、気遣いは「迎合努力」、「抑制」、「気配り」、「対人劣等頻度」、「非拒否欲求」の影響を受けていた。男ではこのうち、「迎合努力」、「気配り」の影響がなかった。女では「抑制」、「気配り」、「対人劣等頻度」の影響がなく、「顕在的対人ストレス」の影響を受けていた。

3.4. 自由記述

自由記述は、まず質問ごとに結果を分類した。

「気にする場面」では、自分の状況と相手の状況の

二つに分けた。そして、自分の状況の中から、「苦手な人と会話するとき」などの言語を必要とする他者とのコミュニケーション状況を『言語』、「相手に対してどう反応すればいいか困るとき」などの言語を必ずしも必要としない他者とのコミュニケーション状況を『非言語』、「早く部屋を出たいとき」などの必ずしもコミュニケーションを必要としない状況を『それ以外』とした。相手の状況も同様に「自分の言葉で相手が傷ついたとき」などの『言語』、「相手のそぶりがいつもと違うとき」などの『非言語』、「気まずい雰囲気するとき」などの『それ以外』に分類した。

「気にする行動」では、自分に向かう行動と相手に向かう行動の二つに分けた。そして、自分に向かう行動も「話し方に気をつける」などの『言語』、「ぼろを出さないようにする」などの『非言語』、「礼儀を守る」などの『それ以外』に、相手に向かう行動も「目を見て話す」などの『言語』、「控えめに振舞う」などの『非言語』、「相手が退屈そうにしていなに見る」などの『それ以外』に分類した。

「気にする場面」と「気にする行動」について、 χ^2 検定を行った。その結果を Table 6, Table 7 に示した。

Table6

「気にする場面」の測定度数

		全体	男	女
自分	言語	107	56	51
	非言語	54	23	31
	それ以外	34	2	32
相手	言語	9	0	9
	非言語	31	11	20
	それ以外	137	42	95
合計		372	134	238

Table7

「気にする行動」の測定度数

		全体	男	女
自分	言語	21	10	11
	非言語	17	0	17
	それ以外	102	46	56
相手	言語	121	41	80
	非言語	96	24	72
	それ以外	15	13	2
合計		372	134	238

①気にする場面

全体では『自分・言語』、『相手・それ以外』が比率的に多く、『自分・それ以外』『相手・言語』『相手・非言語』は、比率的に少なかった〔 $\chi^2 = 197.87$, $df = 5$, $p < .01$ 〕。男では『自分・言語』、『相手・それ以外』が比率的に多く、『自分・それ以外』『相手・非言語』は、比率的に少なかった〔 $\chi^2 = 73.24$, $df = 4$, $p < .01$ 〕。女では『自分・言語』、『相手・それ以外』が比率的に多く、『相手・言語』『相手・非言語』は、比率的に少なかった〔 $\chi^2 = 117.26$, $df = 5$, $p < .01$ 〕。

②気にする行動

全体では『自分・それ以外』『相手・言語』『相手・非言語』が比率的に多く、『自分・言語』『自分・非言語』『相手・それ以外』が比率的に少なかった〔 $\chi^2 = 196.00$, $df = 5$, $p < .01$ 〕。男では『自分・非言語』『自分・それ以外』が比率的に多く、『自分・言語』『相手・それ以外』が比率的に少なかった〔 $\chi^2 = 39.21$, $df = 4$, $p < .01$ 〕。女では『自分・それ以外』『相手・言語』『相手・非言語』が比率的に多く、『自分・言語』『自分・非言語』『相手・それ以外』が比率的に少なかった〔 $\chi^2 = 143.53$, $df = 5$, $p < .01$ 〕。

③「気にする場面」「気にする行動」クロス集計

「気にする場面」と「気にする行動」のクロス集計の結果をTable 8、Table 9、Table10に示した。なお、結果記述では、『場面』『行動』の順で表記した。

全体では『相手・それ以外』『自分・それ以外』と『相手・それ以外』『相手・非言語』が比率的に多かった〔 $\chi^2 = 47.41$, $df = 25$, $p < .01$ 〕。男では『相手・それ以外』『自分・それ以外』が比率的に多かった〔 $\chi^2 = 28.65$, $df = 16$, $p < .05$ 〕。女ではどの状況でも各行動の起こりやすさに差がなかった〔 $\chi^2 = 33.70$, $df = 25$, $p > .10$ 〕。

Table8

「気にする場面」・「気にする行動」のクロス集計（全体）

		状況 自分 言語	非言語	それ以外	相手 言語	非言語	それ以外	合計
行動 自分	言語	10	1	4	1	4	1	21
	非言語	5	5	4	1	0	2	17
	それ以外	25	14	7	0	7	49	102
相手	言語	36	23	10	5	11	36	121
	非言語	26	8	9	2	9	42	96
	それ以外	5	3	0	0	0	7	15
合計		107	54	34	9	31	137	372

Table9

「気にする場面」・「気にする行動」のクロス集計（男）

		状況 自分 言語	非言語	それ以外	相手 言語	非言語	それ以外	合計
行動 自分	言語	6	0	1	0	3	0	10
	非言語	0	0	0	0	0	0	0
	それ以外	15	7	1	0	2	21	46
相手	言語	20	9	0	0	2	10	41
	非言語	10	4	0	0	4	6	24
	それ以外	5	3	0	0	0	5	13
合計		56	23	2	0	11	42	134

Table10

「気にする場面」・「気にする行動」のクロス集計（女）

		状況 自分 言語	非言語	それ以外	相手 言語	非言語	それ以外	合計
行動 自分	言語	4	1	3	1	1	1	11
	非言語	5	5	4	1	0	2	17
	それ以外	10	7	6	0	5	28	56
相手	言語	16	14	10	5	9	26	80
	非言語	16	4	9	2	5	36	72
	それ以外	0	0	0	0	0	2	2
合計		51	31	32	9	20	95	238

4. 考察

関連の結果を見ていくと、男女ともに「気遣い・気疲れ」、「迎合努力・気疲れ」には有意な相関が見られなかった。これは、気遣いや無理して合わせているからといって、本人が負担に感じていない、または負担の許容範囲内であるなら、必ずしも気疲れに直接つながらないことを意味しているのではないだろうか。そして、全体と女で一番相関が高かったのは「気配り・好印象希求」であるのに対し、男は「消極的・評価不安」であった。このことから、女は良い印象を持ってもらいたいから、相手に対して気を配ることが多く、男は他者からの評価を気にするから、消極的な態度をとることが多いということが言える。

気持ち・行動と対人欲求の相関を見ていくと、全体、男女ともに、拒否されたくない欲求との間には、すべて有意な正の相関があった。このことから、他者から拒否されたくない欲求が強ければ強いほど、評価不安や好印象希求、気遣いの気持ちが強くなり、気を配ったり、消極的な態度をとったり、無理して合わせたり、自分を抑えたりすることで拒否されたくない欲求を満たそうとし、集団の中で自分の居場所や役割を確保しようとしていることが言える。そして対人態度の負担が積み重なって、気疲れへとつながっていくと言えるのではないだろうか。

一方、関係を回避したい欲求との相関を見ていくと、男は関係を回避したい欲求が強ければ、気を遣ったり、気を配ることで、他者からの直接的な拒絶や批判を回避して自己を防衛しようとしているのに対し、女は関係を回避したいからといって、気遣いの気持ち

を持ったり、気配り行動をしたりするとは限らないと言える。

そして、賞賛されたい欲求が強い人は、積極的に行動し他者の注目を集めることにより、集団の中で自分の居場所や役割を確保しようとするから、良い印象を持ってもらいたい気持ちが強く、気を配ろうとし、無理にでも合わそうとするのではないだろうか。男の場合はそれが、より「好印象希求」、「気配り」の方向に強く、女の場合はそれに加えて、他者からの評価に敏感になるということが言えるのではないだろうか。

最後に、対人欲求全体で見ると、男女ともに「好印象希求」との間に相関が見られた。男ではそれに加えて「気配り」、女では「迎合努力」が対人欲求との関係が深いと考えられる。また、女で相関が一番高いのは「拒否されたくない欲求・消極的」、男では「拒否されたくない欲求・気配り」であった。このことから、女は消極的な態度をとることで、集団に溶け込もうとするのに対し、男は気を配ることで集団に溶け込もうとするということが言える。女のほうが男よりも消極的な態度で、男は積極的な態度で対人欲求を解消しようとしていると言えるのではないだろうか。

気持ち・行動とストレス度の相関を見ていくと、女のほうが男に比べて対人葛藤や対人劣等に該当する顕在的対人ストレスをそれぞれの気持ち、行動のときによく感じていると言える。

一方、潜在的対人ストレスとの相関は全体、男女ともに「気疲れ」で有意な正の相関が得られ、それ以外の気持ちと行動では有意な相関は得られなかった。潜在的対人ストレスは親しくない人との会話や上下関係への気遣いなど、ソーシャルスキルの発揮が要求される場面での気疲れの程度であるから、有意な相関が得られたのが「気疲れ」だけというのは結果として妥当だと言える。

ストレス頻度とインパクトとの相関を見ていくと、ストレス頻度3因子、インパクト3因子すべてと相関が見られたのは、全体、男女ともに「評価不安」のみであった。評価不安を抱える人は他者からの評価態度に敏感であるから、自然と他者の一挙一動に敏感になり、それを気にしすぎるために対人葛藤・対人劣等・対人磨耗が生じるそれぞれの場面でストレスを感じてしまうことが多くなるのではないだろうか。

また、対人劣等頻度、対人劣等は全体と女の気持ち4因子、行動4因子すべてと有意な正の相関が見られた。男では「好印象希求」以外で有意な相関があった。このことから、女のほうが他者に対して劣等感とそれに伴うストレスを感じやすく、その劣等感を払拭するためにも他者から好印象を持たれたいという気持ちが強いのではないだろうか。

一方、対人磨耗頻度との間には、女では「評価不安」、「気疲れ」、「抑制」に有意な正の相関があったの

に対し、男では「評価不安」、「気遣い」に有意な正の相関があった。対人磨耗は日常のコミュニケーションなどで起こる、社会規範からさほど逸脱していない配慮や気疲れを伴う対人関係がストレスをかけている事態に関するものであるから、対人葛藤頻度以上に他者の行動や反応に敏感になるだろうし、それに伴う気疲れも多くなると言える。女ではそれがより顕著であるのに対し、男ではコミュニケーション場面で起こりうる気遣いに対してストレスを感じていると言える。

重回帰分析の結果を見ていくと、気配りは好印象希求、賞賛欲求、非拒否欲求、評価不安の影響を受けている。好印象を持たれたい、賞賛されたいという、相手から良く思われたいという気持ちとその裏側にある拒否されたくない気持ち、他者からの評価に敏感になり不安に思う気持ちが他者への気配りという形になって現れるのだろう。男では好印象希求との関係がなかった。女では賞賛欲求との関係がなく、回避欲求との関係があった。女は男よりも好印象を求める気持ちが強い一方で、関係を回避したいと思っていても気配りをするのがわかった。本当は回避したいが、好印象を持たれたいという気持ちもあるから、気持ちとは違う行動をとってしまうのではないだろうか。

消極的な態度はすべての対人欲求と評価不安の影響を受けている。この場合の賞賛・非拒否欲求は気配りのように積極的な働きかけとなって現れるのではなく、消極的な方向で働いているのではないだろうか。賞賛されるために、拒否されないためには積極的になるよりも消極的にしておいたほうが好ましいという気持ちがあるからだと言える。そして回避欲求は関係を回避したいから積極的になるのを嫌がるから、消極的な態度となり、他者からの評価に対して不安を持つから積極的な態度をとれないと考えられるのではないだろうか。そして、男では賞賛欲求、回避欲求との関係がなかった。女では賞賛欲求との関係がなく、好印象希求、気遣い、気疲れとの関係があった。男よりも女のほうが消極的な態度をとるときに気を使ったり、他者からの評価に不安になったりしている気持ちが関係していることが示唆された。

迎合努力は非拒否欲求、評価不安、気遣いの影響を受けている。拒否されたくない気持ち、他者からの評価が不安という気持ちがあるから無理をしてでも相手に合わせると考えられる。相手に合わせないと拒否されてしまう、悪く思われてしまうという気持ちが働いているのではないだろうか。そして、気遣いの気持ちは無理をしてでも相手に合わせる行動をとらせている。相手のことを考えているからこそその行動だと言えるのではないだろうか。男では、非拒否欲求、気遣いとの関係がなく、賞賛欲求との関係があった。女は全体と同様であった。男は女と異なり、相手から賞賛されたい気持ちがあるから無理して相手に合わせようと

していると言えるだろう。

抑制は評価不安、回避欲求、気遣いの影響を受けている。他者からの評価に不安があるから自分を抑えた行動をとろうとし、消極的態度と同様、回避したいから自分を出すような行動を控え、相手のことを考えるから自分を出すのを抑えようとしているのではないだろうか。男は全体と同様であった。女では気遣いとの関係がなかった。男のほうが女に比べて、気遣いの気持ちから自分を抑えようとしていることが示された。

行動4因子を見てみると、男女で行動に影響を与えている因子に違いがあることが示された。女では回避欲求による気配りや、賞賛欲求による迎合努力、非拒否欲求と消極的態度など、欲求と行動が相反しているようだが、これは滝上・米澤（2006）が示したように、女性は、その対人態度において、ネクラ、すなわち対人ポジティブ性と対人ネガティブ性を同時に持つことが多いことと関係があるのではないだろうか。

また、行動4因子にはすべて評価不安が関係しているということがわかった。その評価不安は消極的、対人劣等、対人磨耗頻度、迎合努力、抑制、気配りの影響を受けている。このことから、評価不安と行動4因子は相互に影響を与えていることがわかる。また、対人劣等、対人磨耗頻度による対人ストレスが評価不安に関係しているのは日常生活のコミュニケーション場面でも劣等感を感じるとき、他者からの評価にも敏感になっているということではないだろうか。男では、気配りとの関係がなく、評価不安と気配りを除く行動3因子が相互に影響を与えていることが示された。女では、対人磨耗頻度、迎合努力との関係がなく、評価不安と迎合努力を除く行動3因子が相互に影響を与えていることが示された。

好印象希求は気配り、賞賛欲求、非拒否欲求の影響を受けている。このことから、気配りと好印象希求は相互に影響を与えていることが示された。また、賞賛欲求と非拒否欲求は気配りと好印象希求、両方に影響を与えていることがわかった。賞賛されたい気持ち、拒否されたくない気持ちがあるから好印象を持たれたいと思い、好印象を持たれるために気配り行動をとるという流れになるのではないだろうか。男では賞賛欲求との関係がなかった。また、気配りと好印象希求は相互に影響を与えていなかった。女は全体と同様であった。よって女では、好印象希求と気配り、非拒否欲求は相互に影響を与えていることが示された。

気遣いは迎合努力、抑制、気配り、対人劣等頻度の影響を受けている。このことから、迎合努力、抑制と気遣いは相互に影響を与えていることが示された。そして、対人劣等に関するストレスを感じているときに、気遣いの気持ちで気配り行動をとるのではないだろうか。男では迎合努力、気配りとの関係はなく、非拒否欲求との関係が見られた。女では抑制、気配り、

対人劣等頻度との関係がなく、顕在的対人ストレスとの関係があった。よって、男も全体と同様に抑制と気遣いは相互に影響を与えていることが示された。また、男は拒否されたくないから気遣いを心がけ、女はストレスを感じつつも、相手に気遣いを心がけようとしているのではないだろうか。

気疲れは気配り、対人磨耗、回避欲求の影響を受けている。これは身近な対人関係でストレスを感じるときや気配りすることで気疲れを感じているからではないだろうか。そして、関係を回避したい気持ちを持っていても、他者との関係を回避することができず気疲れを起こしているのではないだろうか。男では、気配りとの関係が見られなかった。女でも気配りとの関係はなく、対人劣等との関係があった。女は男に比べ、対人ストレスを感じることが気疲れへとつながっていると言えるのではないだろうか。

自由記述から、気にする場面は、『自分・言語』『相手・それ以外』であり、気にする行動は『自分・それ以外』『相手・言語』と、対比的結果となった。またクロス集計から、全体では、場面が『相手・それ以外』で行動が『自分・それ以外』か『相手・非言語』が比率的に多かった。これは、自分について気にする場面では、『自分・言語』というコミュニケーション時であり、コミュニケーション状況における自己へのモニター意識から、相手や自分のいろいろな行動に注意を払うことになる。一方、相手について気にする場面は、『相手・それ以外』であり、コミュニケーション以前の問題としての相手状況への感性である。その場合、『自分・それ以外』というコミュニケーション以前の問題としての態度・行動か、『相手・非言語』という言語以外での相手へのコミュニケーション態度・行動で対応しようとしていると言える。たとえば、気まずい雰囲気や相手の反応が気になるから、相手から変に思われないように、ガサガサしないなどの自分へ向かう行動を取り、明るく接するなどの相手に向かう行動をとろうとしているのではないだろうか。

また、女はどの状況でも各行動の起こりやすさに差がなかった。また、女は男に比べて回答数が100ほど多かった。そして、その記述内容も男に比べると具体的で、細かいところまで状況、行動にこだわっていた。自分の状況、相手の状況に限らず、女は周りを気にしていると言える。そして、自分に向かう行動、相手に向かう行動に限らず、何らかの行動をとっている。それが、気配り行動であったり、迎合努力であったり、消極的態度だと言えるのではないだろうか。

以上から、他者にどう思われるか気にしている人は、気持ちでは他者からの評価を気にする面、好印象を希求する面、気遣いの面、気疲れの面を持っていることが示された。行動では気配りの面、消極的態度をとる面、無理して相手に合わせようとする面、自分を

抑えようとする面を持っていることが示された。重回帰分析の結果から、評価不安はすべての行動と相互に影響し合い、気疲れの気持ちは気配り行動の結果、起こる気持ちだと考えられる。

対人欲求は気持ち・行動それぞれに影響を与えていて、賞賛欲求は気配りや消極的態度、好印象希求に影響を与えていた。賞賛されるためには気配りなどの積極的な行動をとろうとする場合と、消極的に自分を引こうとする態度をとろうとする二つの場合があると考えられる。非拒否欲求も同様に、拒否されないためには積極的になるか、消極的になるかの二つの場合が考えられる。回避欲求は他者との関係を回避することで自己を防衛しようとする欲求であるから、他の二つの欲求と異なり、消極的態度や抑制などの自分を引いたり、抑えたりといった、自分を出さない行動をとることで関係を回避しようとしていると考えられる。そして、関係を回避しようとする上で生じる対人関係に気疲れを感じているとも考えられる。

また、対人ストレスは、対人磨耗によるストレスを感じる事が気疲れに、評価不安は対人磨耗によるストレスを感じる頻度が関係していることがわかった。対人磨耗は社会の規範からはさほど逸脱していないが、配慮や気疲れを伴う対人関係によるストレスであるから、気疲れと関係があったのは結果として妥当だと言える。対人劣等も評価不安に、頻度は気遣いに関係していた。劣等感によるストレスを感じているから、他者からの評価に敏感になるのではないだろうか。こうして、他者による自己評価意識の性質によって、異なったストレス状態が生じるのではないかと考えられる。

このように、他者の視点を意識した自己評価意識は、行動面と気持ちの面から捉えることにより、自己の対人行動、対人意識と密接に関係し合い、対人態度を形成していることが示された。滝上・米澤 (2006) でも指摘した、対人態度と対人欲求、対人ストレスの関係は、他者による自己評価意識を媒介としていることが強く示唆された。そしてこうした他者による自己評価意識という自己像は様々な意欲やストレスとも関係している (由良・米澤, 2005)。このように人間関係場面における様々な行動分析視点としての自己評価意識の重要性が指摘できるのである。そして、学校現場における、こどもの学習支援、対人関係支援、自己理解支援にも有益な視点を提供できたと言えるだろう。

引用文献

- 橋本剛 1997 大学生における対人ストレスイベント分類の試み 社会心理学研究, **13**, 64 - 75.
- 平石賢二 1990 青年期における自己意識の発達に関する研究 (I) - 自己肯定性次元と事故安定性次元の検討 名古屋大学教育学部紀要—教育心理学科, **37**, 217 - 234.
- 菊池章夫 1988 思いやりを科学する—向社会的行動の心理とスキル— 川島書店.
- 木内亜紀 1995 独立・相互依存的自己理解尺度の作成および信頼性・妥当性の検討 心理学研究, **66**, 100 - 106.
- 岡田努 1993 現代の大学生における「内省および友人関係のあり方」と「対人恐怖的心性」との関係 発達心理学研究, **4**, 162 - 170.
- 菅原健介 1984 自己意識尺度 (self-consciousness scale) 日本語版作成の試み 心理学研究, **55**, 184 - 188.
- 菅原健介 1986 賞賛されたい欲求と拒否されたくない欲求—公的自意識の強い人に見られる二つの欲求について— 心理学研究, **57**, 134 - 140.
- 滝上真衣子・米澤好史 2006 対人態度、対人欲求、対人ストレスの関係—新しいネクラ観の提案— 和歌山大学教育学部紀要 (教育科学), **56**, 9 - 18.
- 辻平治郎 1993 自己意識と他者意識 北大路書房.
- 植田智・吉森護 1990 日本版 MLAM 承認欲求尺度作成の試み 広島大学教育学部紀要 第1部 第**39**号 151 - 156.
- 渡部玲二郎 1999 対人関係能力と対人欲求の関係 心理学研究, **70**, 154 - 159.
- 由良健一・米澤好史 2005 子どもの学習における自己評価を規定する要因とその影響—自己像・意欲・ストレスの関係— 和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, **15**, 27 - 36.